

I. 評価指標関係(文部科学省への必須報告分)

【地方創生や「食・農」に関わる事業】

1. 地方創生や「食・農」に関わる委員会等への参画や地域課題把握のための機会の増加状況
 - (1) 関係自治体委員会等への参画
 - (2) 地方創生会議やリエゾンサロンの開催
2. 地方創生や「食・農」に関わる研究成果を創出し、共同研究・寄付講義の受託への発展状況
 - (1) 寄付講義
 - (2) 受託・共同研究
3. 地方創生や「食・農」に関わる研究成果の地域への還元機会の増加
 - (1) 研究成果の公表
 - (2) セミナーでの報告・提言

II. 独自項目関係

4. その他
 - (1) 学会発表・研究会報告
 - (2) 競争的資金等による研究活動
 - (3) 特許の出席
 - (4) その他(雑誌論説、研究報告書・研究資料、新聞記事、テレビ・ラジオ出演など)
5. 研究所活動
 - (1) 運営委員会 食農アドバイザー会議
 - (2) 所内会議
 - (3) 研究ユニット会議
 - (4) 教育活動への寄与
 - (5) 研究所成果報告・研究年報・研究所だよりなど
 - (6) 意見交換会、広報活動など
6. 参考資料(別添資料)

食農総合研究所設置要項、運営委員会規程・名簿、食農協議会規約・名簿、食農アドバイザーボード規約・名簿、研究ユニット名簿等

1ー(1) 地方創生や「食・農」に関わる関係自治体の審議会・委員会における有識者委員としての参画：10件／年

※和歌山圏域および国関係の機関のみ。

	氏名	審議会等の名称	資格	主催	団体種別	備考
1	大浦由美	和歌山県土地利用審査会	委員	和歌山県	県・公共	
2	大浦由美	和歌山県内水面漁場管理委員会	委員	和歌山県	県・公共	
3	大浦由美	和歌山県紀の国森づくり基金運営委員会	委員長	和歌山県	県・公共	
4	大浦由美	和歌山県森林審議会	委員	和歌山県	県・公共	
5	大浦由美	和歌山県環境審議会	委員	和歌山県	県・公共	
6	大浦由美	田辺市熊野古道の森保全委員会	委員	和歌山県田辺市	市・公共	
7	藤田武弘	地域資源を活用した観光地魅力創出事業検討委員会	有識者委員	観光庁	国	
8	藤田武弘	子ども農山漁村交流による地域活性化モデル事業審査委員会	審査委員	総務省	国	
9	藤田武弘	わかやま和み暮らし推進協議会	会長	和歌山県	県・公共	
10	藤田武弘	和歌山食材プロローグ事業検討委員会	会長	和歌山県	県・公共	
11	藤田武弘	和歌山県卸売市場審議会	会長	和歌山県	県・公共	
12	藤田武弘	和歌山県グリーン・ツーリズム推進委員会	委員長	和歌山県	県・公共	
13	藤田武弘	和歌山県農水産物・加工食品輸出促進協議会	委員	和歌山県	県・公共	
14	藤田武弘	医療観光研究会	委員	和歌山県	県・公共	
15	藤田武弘	みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会	委員	みなべ町・田辺市	県・公共	
16	藤田武弘	日本農業賞審査委員	委員長	和歌山県農業協同組合中央会	団体	
17	岸上光克	和歌山県農業農村振興委員会 日本型直接支払制度推進部会	委員・部長	和歌山県	県・公共	
18	岸上光克	和歌山県農業農村振興委員会 農業及び農山村の振興に係る第3者部会	委員・部長	和歌山県	県・公共	
19	岸上光克	マナビスト支援セミナー	講師	和歌山県教育委員会	県・公共	
20	岸上光克	和歌山県グリーン・ツーリズム推進委員会	委員	和歌山県	県・公共	
21	岸上光克	和歌山県食育推進会議	委員長	和歌山県	県・公共	
22	岸上光克	和歌山県農業改良普及連絡協議会	委員	和歌山県	県・公共	
23	岸上光克	和歌山市防災会議	委員	和歌山県和歌山市	市・公共	
24	岸上光克	泉南市総合交流拠点施設指定候補者選定委員会	副委員長	大阪府泉南市	市・公共	
25	岸上光克	きのくに活性化センター企画運営委員会	委員	きのくに活性化センター	その他	

1- (1) 地方創生や「食・農」に関わる関係自治体の審議会・委員会における有識者委員としての参画:10件/年

※和歌山圏域および国関係の機関のみ。

氏名	審議会等の名称	資格	主催	団体種別	備考
26 岸上光克	紀美野町新商品開発プロジェクト	委員	紀美野町まちづくり協議会	その他	
27 岸上光克	大阪府中央御売市場指定管理者評価委員会	委員	大阪府	府・公共	
28 岸上光克	わかやま農工商連携フアンド事業審査委員会	委員	わかやま産業振興財団	公益財団法人	
29 岸上光克	マーケットインに対応したJA営農関連事業のあり方に関する研究会	委員	日本協同組合連携機構	一般社団法人	
30 岸上光克	国産食肉等新需要創出緊急対策事業 優良事例調査委員会	委員	日本食肉消費総合センター	公益財団法人	
31 戴容秦思	国産食肉等新需要創出緊急対策事業 優良事例調査委員会	委員	日本食肉消費総合センター	公益財団法人	
32 辻和良	紀北農芸高等学校運営協議会	委員	和歌山県立紀北農芸高校	県・公共	
33 植田淳子	SAVOR JAPAN 農泊 食文化海外発信地域有識者会議	委員	農林水産省	国	
34 湯崎真梨子	和歌山県農業会議	理事・常任委員	一般社団法人和歌山県農業会議	県・公共	
35 湯崎真梨子	「知」の集積による産学連携支援事業企画審査委員会	委員	農林水産省農林水産技術会議	国	
36 湯崎真梨子	和歌山県工業技術センター評価委員会	委員	和歌山県工業技術センター	県・公共	
37 湯崎真梨子	和歌山県固定資産評価審議会委員	委員	和歌山県	県・公共	
38 湯崎真梨子	和歌山県国土利用計画審議会	委員長	和歌山県	県・公共	
39 湯崎真梨子	和歌山県植物公園緑化センター等指定管理者選定委員会	委員	和歌山県	県・公共	
40 湯崎真梨子	近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会	委員	国土交通省近畿地方整備局, 独立行政法人水資源機構	国	
41 湯崎真梨子	紀の川流域懇談会	委員	国土交通省近畿地方整備局	国	
42 湯崎真梨子	和泉大津市入札監視委員会	委員	泉大津市	府・公共	
43 湯崎真梨子	堺市指定管理者制度懇話会	委員	堺市	府・公共	
44 湯崎真梨子	和歌山・まちづくり連携事業運営委員会	委員	和歌山市	市・公共	

1-(2)A 地方創生や「食・農」に関わる課題抽出の場としての「地方創生推進協議会」の開催：3回／年

開催日	名称	場所	参加人数	会議内容
1 平成30年7月23日	地方創生推進・食農協議会	和歌山大学 南1号館 共通会議室	3人	1)食農総合研究所の概要 2)食農総合研究所の事業報告 3)食農総合研究所事業計画 4)意見交換 5)その他
2 平成30年7月23日	地方創生推進・食農協議会実務者会議	和歌山大学 南1号館 共通会議室	6人	1)食農総合研究所の概要 2)食農総合研究所の事業報告 3)食農総合研究所事業計画 4)意見交換 5)その他
3 平成31年3月11日	地方創生推進・食農協議会実務者会議	和歌山大学 産学連携 イノベーションセンター	7人	1)平成30年度食農総合研究所の業務ならびに活動について 2)食農総合研究所の今後の活動について 3)その他

1-(2)B 地方創生や「食・農」に関わる情報交流の場としての「リエゾンサロン」の開催：3回／年

開催日	名称	テーマ等	講師・報告者等	場所	参加人数	開催内容等
平成30年6月5日	地域資源活用・都市農村共生研究ユニット研修セミナー	地域運営組織(RMO)の性格と行政の関与、大分県の事例、今後の動向	大分大学経済学部教授 山浦陽一	和歌山大学 産学連携 イノベーション センター	23人	報告のあと、意見交換・ 情報交換を行った。
平成30年7月28日	都市農村共生研究ユニット研究セミナー	地域セッション「農業体験農園の可能性を考える」 1)都市農業に果たす農業体験農園の役割と課題 2)農業体験農園に対するJAわかやまの取り組み 個別報告 1)和歌山大学 2)広島県立総合技術研究所 農業技術センター 3)農研機構 西日本農業研究センター 中本英理 4)神戸大学 木原奈穂子	地域セッション 1)和歌山大学 2)JAわかやま 藤井至 池田信義 大坪史人 西濱健太郎	岸和田市立 浪切ホール 研修室	26人	報告のあと、意見交換・ 情報交換を行った。 ※2018年度地域農林 経済学会近畿支部大 会との共同開催
平成30年9月18日	都市農村共生研究ユニット現地交流会in日高川	ゆめ倶楽部21の体験型観光・移住支援等の取り組みと課題 ゆめ倶楽部21代表者との意見交換会	日高川町役場 企画政策課定住促進室 ゆめ倶楽部21会長 体験案内部長 民泊部会長 直川裕子 山下泰三 小早川眞 大澤恵	日高川町役場 日高川交流セ ンター	10人	報告のあと、意見交換・ 情報交換を行った。
平成30年9月29日	地域資源活用研究ユニット研究セミナー	田辺市中心市街地活性化に向けて田辺駅前商店街で空き店舗を再生してパン屋を開業。地域活動の実態と悩みを把握し、一緒に考える。	やきたてパンD'oh!店主 浅賀由貴乃	和歌山県立 情報交流セン ターBig・U	25人	報告のあと、意見交換・ 情報交換を行った。
平成30年10月4日	食農総合研究所公開セミナー	インドネシアにおける様々な土着の食品における研究成果とそれらの地域資源を活用した女性の活躍を紹介。	インドネシア Pembangunan Jaya大学学長 リナフティ・リマンタラ博士	和歌山大学 西1号館 CTR会議室	13人	報告のあと、意見交換・ 情報交換を行った。
平成30年12月8日	地域資源活用研究ユニット研究セミナー	地域おこし協力隊から起業した事例から。地域活動の実態と悩みを把握し、一緒に考える。	一樹の蔭 代表取締役社長 博多敏希	和歌山県立 情報交流セン ターBig・U	23人	報告のあと、意見交換・ 情報交換を行った。
平成30年12月22日	地域資源活用研究ユニット研究セミナー	学生から起業した事例から。地域活動の実態と悩みを把握し、一緒に考える。	一般社団法人kumano.co 理事 森岡雅勝	和歌山県立 情報交流セン ターBig・U	20人	報告のあと、意見交換・ 情報交換を行った。

1-(2)B 地方創生や「食・農」に関わる情報交流の場としての「リエゾンサロン」の開催：3回／年

開催日	名称	テーマ等	講師・報告者等	場所	参加人数	開催内容等
平成31年1月13日	食農総合研究所公開セミナー	農業体験農園が切りひらく都市農業の新たな可能性について考える。	全国農業体験協会 理事長 加藤義松	JAわかやま中央営農センター	48人	報告のあと、意見交換・情報交換を行った。
平成31年1月27日	地域資源活用研究ユニット研究セミナー	学校を核とした地域づくりと地域から学ぶ学校を实践する芸術教育の可能性	りら創造芸術高等学校 教頭 鞍雄介	田辺市文化交流センターたなべる	30人	報告のあと、意見交換・情報交換を行った。
平成31年1月28日	食農総合研究所公開セミナー	植物の品種を作る難しさー過去から未来ー	岩手大学国際交流アドバイザー 門馬孝之	和歌山大学西4号館 T-101	28人	報告のあと、意見交換・情報交換を行った。
平成31年2月5日	食農総合研究所公開セミナー	労働力不足への対応	日本協同組合連携機構 岩崎真之介	県民文化会館 大会議室	32人	報告のあと、意見交換・情報交換を行った。
平成31年2月12日	食農総合研究所公開セミナー	食品のアドバイス、食品開発等	food-biz代表 道畑富美	和歌山大学 産学連携イノベーションセンター	20人	報告のあと、意見交換・情報交換を行った。
平成31年3月1日	CTR研究支援プロジェクトセミナー	世界の多様な食と農を考えるーインバウンドから定住へー	ムスリム世界連盟 日本支部 スレー・アナス 和歌山大学 食農総合研究所 戴容秦思 和歌山大学 国際観光学研究センター アダム・ドーリング 和歌山大学 食農総合研究所 岸上光克 国立民族学博物館 石山俊 一般財団法人地球・人間環境フォーラム /国立民族学博物館 宮崎英寿	和歌山大学 国際観光学研究センター	10人	参加者各国の食文化と農業事情を報告のあと、意見交換・情報交換を行った。

2-1(1)A 寄付講義の開講(学部開放科目としてリカレント教育にも対応)の開講: 1科目(一般受講者10名、学生20名以上)／年

講義名	講義内容	受講者	講義の目的・成果	備考
食と農のこれからを考える 学部開放科目 (後期)	<p>日本の豊かな食を支える農業・農村は危機的状況にある。一方で、近年、全国の農村では活性化に向けて様々な取組がみられる。国も「地方創生」を合言葉として、農業・農村を応援している。本講義では、食と農の関係性の変化を把握するとともに、農業経営や都市農村交流、そして地域づくりについて現状と課題を把握し、今後の展開について検討する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>【01】現代の食料・農業(岸上光克:和歌山大学食農総合研究所教授)10月2日</p> <p>【02】地方創生と農の6次産業化(内藤重之:琉球大学農学部教授)10月9日</p> <p>【03】日本版ガストロノミーと文化の創造(尾藤環:辻調理師専門学校企画部長)10月16日</p> <p>【04】食農教育の現代的意義(川端慎介:JA全中くらし・高齢者対策課長)10月23日</p> <p>【05】フードシステムの特徴と課題(小林茂典:農林水産省農業政策研究所主任研究員)10月30日</p> <p>【06】都市農村交流の新段階(藤田武弘:和歌山大学観光学部・教授)11月6日</p> <p>【07】地域資源の活用とコミュニティビジネス(木村則夫:株式会社秋津野副社長)11月13日</p> <p>【08】「田園回帰」時代のライフスタイル(辻和良:和歌山大学食農総合研究所特任教授)11月27日</p> <p>【09】農業・農村とジェンダー(植田淳子:和歌山大学食農総合研究所特任助教)12月4日</p> <p>【10】農業の後継者問題(山本淳子:農研機構食農ビジネス研究センター主任研究員)12月11日</p> <p>【11】農業生態系・多面的機能の価値(原祐二:和歌山大学システム工学部准教授)12月18日</p> <p>【12】都市農業の新展開(藤井至:和歌山大学観光学部特任助教)1月8日</p> <p>【13】協同組合の現代的価値(岸上光克:再掲)1月15日</p> <p>【14】農業とIT活用(佐々木茂明:株式会社シトラス代表取締役)1月22日</p> <p>【15】若手農業者と語る「食と農のこれから」(藤田武弘:再掲+県内若手農業後継者等)1月29日</p> <p>芝 翼:JA和歌山県青年部副会長 井上信太郎:善兵衛農園七代目 担当 浅井咲穂:和歌山大学観光学部3年 貴志年伸:JAわかやま冬瓜部会長 坂東紀好:JAわかやま代表理事組合長</p>	約300人	講義の総括およびそれぞれの視座から提供される講義のコーディネーターは主任講師がつとめるが、産官学地域連携の視点から民間事業者、地域住民も講師陣に加えるほか、農村地域再生にかかわる全国的議論をリードする大学教員や実践者をゲストスピーカーに迎えることで、時宜にかなった体系的な学びの場を提供をめざす。	JAわかやま「寄付講義」 (主任講師: 岸上光克)

2-1(1)B 寄付講義の開設(学部開放科目としてリカレント教育にも対応)の開設:1科目(一般受講者10名、学生20名以上)／年

講義名	講義内容	受講者	講義の目的・成果	備考
地域づくり戦略論 南紀熊野サテライト学部開放科目(後期)	<p>地方創生が叫ばれる昨今、農山村再生手法として注目を集める都市農村交流では、農作業や農村での生活体験を共有することにより「もてなしを提供する側と享受する側とが、対等・互恵の人間的な関係に立って、相互に喜びを共有する精神性(ホスピタリティの精神)」に基づく関係性を構築することが重要である。</p> <p>本講義では「都市農村交流によるホスピタリティ人材の育成」をテーマに掲げ、①戦略的地域づくりのための理論、②先進地の「地域づくり・人材育成」実践の成果に学ぶ、③地域資源を活用した「6次産業化」と地方創生、④都市農村関係の変化と新しい「ツーリズム」、⑤日本農業の行方と農山村再生の戦略、の5つの視座から農山村における地域づくり戦略を考える。</p> <p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> □視座①: 戦略的地域づくりのための理論 【01】 【05】 【11】 □視座②: 「地域づくり・人材育成」実践の成果に学ぶ 【02】 【03】 【04】 □視座③: 地域資源を活用した「6次産業化」と地方創生 【07】 【08】 【09】 □視座④: 都市農村関係の変化と新しい「ツーリズム」 【06】 【10】 【12】 □視座⑤: 日本農業の行方と農山村再生の戦略 【13】 【14】 【15】 <p>【授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【01】 地域づくりの経済学～地域内再投資力序説～(岡田知弘:京都市大学10月16日13:00～14:30) 【02】 地域経営のための合意形成と組織づくり(玉井常貴:榊秋津野)10月16日15:00～16:30 【03】 農商工連携とコミュニティビジネス(木村則夫:榊秋津野)10月17日9:00～10:30 【04】 地域連携とコーディネーターの役割(藤井至:和歌山大学)10月27日13:00～14:30 【05】 協同組合の現代的価値(岸上光克:和歌山大学)10月27日15:00～16:30 【06】 都市農村関係の変化と日本型グリーンツーリズム(藤田武弘:和歌山大学)10月28日9:00～10:30 【07】 地域産業や働き方から考える地域デザイン(松永桂子:大阪市立大学)11月17日13:00～14:30 【08】 紀伊半島民家の地域性と多様性(平田隆行:和歌山大学)11月17日15:00～16:30 【09】 地域固有性を活かした地域づくり(中塚雅也:神戸大学)11月18日9:00～10:30 【10】 地域と共に歩む都市農業の新たな展開(加藤義松:全国農業体験農園協会理事)1月12日13:00～14:30 【11】 中山間地域問題の可視化(有田昭一郎:島根県中山間地域研究センター)1月12日15:00～16:30 【12】 産直活動を通じた都市農村交流(宇田篤弘:紀ノ川農業協同組合)1月13日9:00～10:30 【13】 日本農業の後継者問題(山本淳子:独立行政法人農研機構)2月2日13:00～14:30 【14】 地域サポート人材からみた農山村再生の課題(岡司直也:法政大学)2月2日15:00～16:30 【15】 世界の食料問題と日本農業(内藤重之:琉球大学)2月3日9:00～10:30 	約30人	講義の総括およびそれぞれの視座から提供される講義のコーディネートナーは主任講師がつとめるが、産官学地域連携の視点から、民間事業者、地域住民も講師陣に加えるほか、農村地域再生にかかわる全国的議論をリードする大学教員や実践者をゲストスピーカーに迎えることで、時宜にかなった体系的のある学びの場を提供をめざす。	江頭ホスピタリティ事業振興財団 「寄付講義」 (主任講師: 藤田武弘)

2-1(2) 地方創生や「食・農」に関わる自治体および関係団体からの受託・共同研究：2件／年

名称	予算規模	受託・共同研究別	委託元	研究代表者	参加教員	研究概要
1 紀美野町地方創生アクションプラン策定業務	2,700,000	受託研究	紀美野町	岸上光克	大浦由美、藤田武弘 辻 和良、杵本敏男 植田淳子	農業・農村分野を重点に置いて、28年度、29年度に行った各種調査とともに、住民ワークショップ等をもとに、「紀美野町農業観光連携ビジョン」を作成する。
2 市民農園の新たな展開方式による都市農業再生策に関する研究	200,000	共同研究	JAわかやま	藤田武弘	大浦由美、辻和良 植田淳子	和歌山市内・都市的地域における市民農園・体験農園の取組・普及について県外の先進事例の調査を踏まえながら新たな方策について研究・開発している。本年度は新たに4箇所を展開。
3 梅酢ポリフェノールのかぜ症候群・インフルエンザの予防に関する研究	4,000,000	共同研究	紀州田辺うめ振興協議会	大浦由美	三谷隆彦	梅酢ポリフェノールのかぜ症候群・インフルエンザの予防に関する臨床試験のデータ解析と論文化、梅酢ポリフェノール中の関与成分に関する基礎試験の実施、梅文獻のまとめ。
4 岬町特産品開発業務	800,000	受託研究	岬町	岸上光克	大浦由美、藤田武弘 辻 和良、杵本敏男 植田淳子、戴容秦思	岬町の特産品を活かした加工品を開発し、観光資源とともに情報発信することで交流人口の拡大を図る。

3-1(1) 地方創生や「食・農」に関わる研究成果(学術図書・学術論文等の公表):5編以上/年

氏名	業績	発行所	掲載誌・書名 書名・巻号・頁数	発行人	業績内容	査読の有無	備考	概要
藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克	現代の食料・農業・農村を考える	ミネルヴァ書房	藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克編著『現代の食料・農業・農村を考える』pp.136-152	平成30年5月	学術図書	有	分担執筆	
宮井浩志・辻和良	園芸を取り巻く環境変化と産地の課題	ミネルヴァ書房	藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克編著『現代の食料・農業・農村を考える』pp.204-217	平成30年5月	学術図書	無	分担執筆	
岸上光克・大西敏夫	農村の変容と地域づくり	ミネルヴァ書房	藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克編著『現代の食料・農業・農村を考える』pp.218-232	平成30年5月	学術図書	無	分担執筆	
藤井至・藤田武弘	都市農村交流と農業・農村振興	ミネルヴァ書房	藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克編著『現代の食料・農業・農村を考える』pp.218-232	平成30年5月	学術図書	無	分担執筆	
藤井至・稲葉修武 藤田武弘	農業経営・交流の両面からみた農業体験農園の役割	日本農業市場学会	農業市場研究 第27巻第1号、pp.12-22	平成30年6月	学術論文	有	共著	
阪井加寿子・貫田理紗 藤田武弘	Uターン移住者の実態と農村移住支援についての考察	日本農業市場学会	農業市場研究 第27巻第1号、pp.30-37	平成30年6月	学術論文	有	共著	
辻和良・植田淳子	中山間地域における移住者の受け入れに対する農家意識-和歌山県紀美野町農家アンケート結果を中心に-	日本農業市場学会	農業市場研究 第27巻第2号、pp.16-22	平成30年9月	学術論文	有	共著	
八島雄士・岸上光克	社会的企業における戦略マップの適用可能性-地域経営組織におけるアグシヨニリサーチ-	メルコ学術振興財団	メルコ管理会計研究 第10号-II	平成30年9月	学術論文	有	共著	
T. MITANI et al	Process for the preparation, separation, and purification of cis-p-coumaric acid	日本分析化学会	Analytical Sciences, Vol. 34, No.10, pp.1195-1199	平成30年10月	学術論文	有	共著	梅酢ポリフェノール中に存在するp-クマール酸異性体の単離法
阪井加寿子・藤田武弘	都市から農村への移住と中間支援組織	昭和堂	神田孝治・大浦由美・加藤久美編『大学的和歌山ガイド-こだわりの歩き方』pp.69-81	平成30年10月	学術図書	無	分担執筆	
大浦由美	紀州の棚田を守り継ぐ	昭和堂	神田孝治・大浦由美・加藤久美編『大学的和歌山ガイド-こだわりの歩き方』pp.141-159	平成30年10月	学術図書	無	分担執筆	
藤井至・大浦由美	都市農村交流の「鏡効果」-「棚田ふあむ」の活動から	昭和堂	神田孝治・大浦由美・加藤久美編『大学的和歌山ガイド-こだわりの歩き方』pp.160-162	平成30年10月	学術図書	無	分担執筆	
辻和良	有田ミカンの産地展開と今日	昭和堂	神田孝治・大浦由美・加藤久美編『大学的和歌山ガイド-こだわりの歩き方』pp.167-185	平成30年10月	学術図書	無	分担執筆	
藤田武弘	南部・田辺地域の梅	昭和堂	神田孝治・大浦由美・加藤久美編『大学的和歌山ガイド-こだわりの歩き方』pp.189-199	平成30年10月	学術図書	無	分担執筆	
植田淳子	JA直売所における農家女性の主体形成の変容に関する研究-和歌山県JA紀の里めつけもん広場の取組を中心に-	全国農業協同組合中央会編	協同組合奨励研究報告第四十四輯	平成31年3月	学術論文	無	単著	

3-(2) 地方創生や「食・農」に関わる自治体および関係団体主催の講演・セミナーでの報告・提言：10件／年

氏名	小分類(講演会・研究会・セミナー等)	題目	講演会	主催	開催日	参加人数
1 岸上光克	講演	和歌山県田辺市の秋津野ガレンにおける農村多角化と観光の取組	観光のひろば 第23回	NPO法人スマート観光推進機構	平成30年4月23日	50人
2 岸上光克	パネルディスカッション(パネリスト)	地域におけるJAの役割と青年部の関わり	平成30年度JA青年部リーダー研修会	和歌山県農協青年部協議会	平成30年4月27日	30人
3 辻和良	研修会	園芸産地の労働力確保と担い手育成 -西宇和みかん支援隊の取り組みを中心に-	和歌山県野菜・花き園芸技術員協議会研修会	和歌山県野菜・花き園芸技術員協議会	平成30年5月22日	36人
4 岸上光克	講演	産地における地域資源を活かした観光振興	みなべ町観光協会総会	みなべ観光協会	平成30年5月27日	68人
5 辻和良	検討会議	農業労働力確保の取り組み -愛媛県西宇和みかん支援隊-	農業労働力確保対策検討会	和歌山県農林水産部経営支援課	平成30年5月29日	26人
6 岸上光克	報告会	平成29年度 観光(周遊)調査報告	紀美野町共同研究庁内報告会	和歌山大学食農総合研究所・紀美野町	平成30年6月4日	15人
7 辻和良	講演	果樹作の地域とビジョンの提案-ミカン産地和歌山県有田地域を対象に-	平成30年度近畿中国四国農業試験研究推進会議本会議	農研機構西日本農業研究センター	平成30年7月1日	67人
8 岸上光克	講演	和歌山の農業 食と農による地域活性化	「地域プロデューサー」としての製菓技術者」育成講座	辻調理師専門学校	平成30年7月2日	40人
9 岸上光克	研究会(解題)	農業体験農園の可能性を考える	地域農林経済学会近畿支部大会2018年度	地域農林経済学会	平成30年7月28日	15人
10 藤田武弘	講義	現代日本農業論	営農指導員(上級)養成研修講義	JA和歌山県中央会	平成30年8月8日	16人
11 岸上光克	講義	現代日本農業論	営農指導員(上級)養成研修講義	JA和歌山県中央会	平成30年8月9日	16人
12 藤田武弘	基調講演	観光をめぐる新たな動きと地域農業の活性化	都市農村交流セミナー	和歌山県農林水産部	平成30年8月21日	60人
13 藤田武弘	講義	都市農村交流が拓く農山村再生の可能性	全国地域リーダー養成塾一般講義	地域活性化センター・総務省	平成30年8月31日	68人
14 辻和良	講演	みかん産地の維持・発展の取り組み -愛媛県西宇和みかん支援隊の事例を中心に-	海南・下津農業の将来を考える集い	下津町農業士会	平成30年9月7日	58人
15 植田淳子	講演会	食がなくなぐ新たな縁	第105回わだいな浪切サロン	和歌山大学岸和田サテライト	平成30年9月19日	30人
16 岸上光克	パネルディスカッション(コーディネーター)	共創シンポジウム	多業種連携シンポジウム&フェア共創の日2018	全国農業協同組合中央会	平成30年9月24日	500人
17 辻和良	講演	紀美野町農業の現状と課題	総合的な学習の時間	和歌山県立海南高校大成校舎	平成30年9月26日	30人
18 湯崎真梨子	研究会	超過疎からの希望を後世に-古座川町七川地区の事例	住民要求研究集会分科会	和歌山県地域自立体問題研究所	平成30年10月6日	50人
19 岸上光克	指導・助言	生徒研究発表会(中間)	SGH開発研事業	和歌山県立日高高校	平成30年10月9日	40人

3- (2) 地方創生や「食・農」に関わる自治体および関係団体主催の講演・セミナーでの報告・提言：10件／年

氏名	小分類(講演会・研究会・セミナー等)	題目	講演会	主催	開催日	参加人数
20 大浦由美	パネルディスカッション(コーディネーター)	地域の魅力に気づき、学び、活かすー5年間のサミットを振り返り、今後を考える	第5回わかやまの棚田・段々畑サミット	和歌山県棚田等保全連絡協議会	平成30年10月10日	323人
21 大浦由美	講演会	森林づくり活動のこれから	わかやま森づくり塾10周年記念大会	わかやま森づくり塾	平成30年10月27日	100人
22 植田淳子	講演会	グリーンツーリズムの魅力とは	農泊推進対策事業	宮古島さかの里ともり・うるか地域協議会	平成30年10月27日	35人
23 辻和良	講演	和歌山県内の直売所の動向と今後の展望	第17回全国農林水産物直売サミット	都市農山漁村交流活性化機構	平成30年11月1日	250人
24 藤田武弘	講義	始まった都市と農村の新たな関係	地域活性化システム論講義	内閣府	平成30年11月17日	58人
25 植田淳子	シンポジウム	こども食堂は地域に何を残すか	コンソーシアム和歌山「わかやま学」講座	宇都宮病院 なるこみ	平成30年12月15日	40人
26 藤田武弘	パネルディスカッション(コーディネーター)	地域×教育～若者が選る、集う、まちが元気になる！持続可能な取組の可能性	地域に貢献できる～地域×教育の可能性を探る	鳥取県日野高校魅力向上推進協議会	平成30年12月16日	80人
27 湯崎真梨子	研究会	女性活動から地域企業へ	ゆず平井の里職員研修会	農事組合法人ゆず平井の里	平成31年1月7日	20人
28 藤田武弘	基調講演	都市農村交流の新たな展開と農業体験農園の役割	東京都練馬区農業体験農園20周年記念講演	東京都練馬区	平成31年1月23日	110人
29 藤田武弘	ミニシンポジウム(コーディネーター)	地域と学校と人づくり～地域の次世代を担う人材育成のために、地域は学校は行政は何かできるか	紀美野町高大連携ミニシンポジウム	和歌山大学、りら創造芸術高等学校、紀美野町	平成31年1月25日	50人
30 藤田武弘	全体会議(フアンリテーター)	知のネットワーク活用による地域人材育成の可能性	大学連携会議・学輪IDA	飯田市	平成31年1月26日	80人
31 湯崎真梨子	研修会	いま求められる地域の内的発展	紀ノ川農協2023年創立40周年をめざす事業と運動計画づくり学習会	紀ノ川農業協同組合	平成31年1月31日	200人
32 辻和良	座談会(フアンリテーター)	季節労働力の確保と産地の活性化	農業経営発展セミナー	わかやま農業経営サポーターセンター、和歌山県経営支援課	平成31年2月4日	60人
33 藤田武弘	基調講演	観光をめぐる新たな潮流と地域農業の再生	かつらぎ町を元気にする地域づくりシンポジウム(かつらぎ町発足60周年記念事業)	かつらぎ町	平成31年2月10日	600人
34 岸上光克	講演	産地における観光振興	観光セミナー	みなべ観光協会	平成31年2月19日	20人
35 藤田武弘	基調講演	都市農村交流の新たな展開と農業体験農園の役割	大阪府農業会議研修会	大阪府農業会議	平成31年2月20日	60人
36 岸上光克	指導・助言	生徒研究発表会	SGH開発事業	和歌山県立日高高校	平成31年3月6日	48人
37 辻和良	講演	果樹産地の労働力と担い手の確保	定例懇話会	紀の川流域農業懇話会	平成31年3月19日	16人
38 植田淳子	講演	グリーンツーリズムの現状	定例懇話会	紀の川流域農業懇話会	平成31年3月19日	16人

4-(1) 学会発表・研究会報告等

氏名	題目	学会・研究会名	主催	開催日	場所	備考
1 岸上光克	観光振興における民泊の役割を多面的に考える	第15回関西から観光立国・立国を考える意見交換会	日本観光研究学会 関西支部	平成30年5月19日	阪南大学あべのハルカスキャンパス	
2 秋本敏男	根粒超着生系統ダイズの低収量の主因は、根粒自身ではない—根粒着生能の異なる三種の同質系統ダイズへの窒素施与の影響比較—	近畿作物・育種研究会第185回例会	近畿作物・育種研究会	平成30年6月2日	神戸大学農学研究科	
3 藤田武弘	観光をめぐる新たな潮流と地域農業・食料市場	日本農業市場学会2018年度大会(シンポジウム報告)	日本農業市場学会	平成30年7月7日	琉球大学	
4 稲葉修武・藤井至 藤田武弘	農業経営における農作業ヘルパー確保の意義に関する一考察	日本農業市場学会2018年度大会(個別報告)	日本農業市場学会	平成30年7月8日	琉球大学	
5 辻和良・植田淳子	農産物直売所における出荷者の交流意識と生産・出荷行動	日本農業市場学会2018年度大会(個別報告)	日本農業市場学会	平成30年7月8日	琉球大学	
6 岸上光克・辻和良 藤田武弘	IAFアーマーズマーケットにおける交流・体験活動の現状と課題	日本農業市場学会2018年度大会(個別報告)	日本農業市場学会	平成30年7月8日	琉球大学	
7 秋本敏男	異なる窒素施与条件が根粒着生能の異なる3種の準同質系統ダイズの種子収量・品質に与える影響解析—完熟種子 $\delta^{15}\text{N}$ 値に基づき窒素同化・固定量の評価	日本土壌肥料学会2018年度大会	日本土壌肥料学会	平成30年9月4日	日本大学生物資源科学部	
8 三谷隆彦	コウヤマキ <i>Sciadopitys verticillata</i> 抽出液に見出された抗ウイルス活性	2018年日本ウイルス学会	日本ウイルス学会	平成30年10月28日～30日	京都市・京都ウエルサ	
9 秋本敏男	異なる窒素施与条件が根粒着生能の異なる3種の準同質系統ダイズの種子収量・品質に与える影響解析—完熟種子 $\delta^{15}\text{N}$ 値に基づき窒素同化・固定量の評価	第39回種子生理生化学研究会年会	種子生理生化学研究会	平成30年11月16日	花巻温泉	
10 秋本敏男	和歌山市で育てた5品種の亜麻の種子成分の品種間差—亜麻(<i>Linum usitatissimum</i>)の観光資源としての可能性の検討	第39回種子生理生化学研究会年会	種子生理生化学研究会	平成30年11月16日	花巻温泉	
11 曹楨敏・大浦由美	韓国における企業の社会的責任としての森づくり活動の展開	2018年林業経済学会秋季大会	林業経済学会	平成30年11月17日	筑波大学	
12 戴容秦思	中国の「非従来型」加工農産物の市場展開と食品加工資本	農業理論研究会2018年第2回定例研究会	農業理論研究会	平成30年12月11日	大阪私学会館	
13 植田淳子・藤田武弘	社会的参画の段階からみた農家女性の変容—NPO法人 安心院町グリーンツーリズム研究会を事例として—	第66回日本農村生活研究大会(一般報告)	日本農村生活学会	平成30年12月9日	北海道立道民活動センター「かでる2.71(札幌市)	
14 鄭海晶・戴容秦思・根鎖・清水池義治	大手乳業メーカーの川上統合による生乳生産・流通への影響—メラミン事件以降の中国・内蒙古自治区を事例として—	日本農業経済学会2019年度大会(個別口頭発表)	日本農業経済学会	平成31年3月31日	東京大学	

4-(2) 科学研究費・その他競争的資金、委託研究等

氏名	課題名	競争的資金名	主催機関	代表・分担別	備考
1 辻和良	地方創生時代の農産物直売所に求められる機能と新たな運営方式に関する研究	平成29～31年度基盤研究(C)	日本学術振興会	代表者	研究分担者 岸上光克、藤田武弘 植田淳子
2 藤田武弘	新たな人口移動を契機とする農山村地域の経済およびコミュニティの変容に関する研究	平成28～30年度基盤研究(C)	日本学術振興会	研究代表者	研究分担者 辻和良、大浦由美 岸上光克、植田淳子
3 藤田武弘	市民農園の新たな展開方式による都市農業再生方策に関する研究	平成30年～32年度共同研究	JAわかやま	研究代表者	研究分担者 大浦由美、辻和良 植田淳子
4 岸上光克	RMO展開プロセスと「公共領域拡大型」行政支援に関する研究	平成29年度独創的研究支援プロジェクトA	和歌山大学	研究代表	研究分担者 藤田武弘、辻和良 杵本敏男、植田淳子 大西敏夫
5 戴容秦思	企業の酪農参入についての実態調査研究	受託研究	雪印メグミルク株式会社 酪農総合研究所	研究分担者	

4-(3) 特許の出願

	発明者氏名	発明の名称	出願番号	出願年月日	備考
1	三谷隆彦	サンシヨオール類の安定化方法、サンシヨオール類含有組成物、及びその製造方法	特願2018-156314	2018年8月24日	
2	三谷隆彦 山本奈美	フェノール化合物含有食品	特願2019-005067	2019年1月16日	

4-(4) その他(雑誌論説、研究報告書・研究資料、新聞記事、テレビ・ラジオ出演など)

氏名	分類	題目	機関名・巻号名	発行所・番組名称等	掲載日等	備考
1 湯崎真梨子	新聞記事	ふるさとの食卓	連載記事 84回～109回	熊野新聞	平成30年4月7日～ 平成31年3月23日	
2 湯崎真梨子	新聞記事	こなんんしてます。わだいたいとまわり	連載記事 157回～179回	わかやま新報	平成30年4月10日～ 平成31年3月19日	
3 藤田武弘	雑誌記事	大特集 名門私大より地方国立大(和歌山大学観光 学部:国立大唯一の観光学部 地域再生の神髄を 学ぶ)	AERA	朝日新聞出版	平成30年4月23日	
4 辻和良	雑誌論説	柑橘産地の労働力確保と担い手の育成	和歌山の果樹・平成30年5月号	和歌山県農業協同組合連合会	平成30年5月1日	
5 岸上光克	研究報告書	JA紀南ウメ販売における全員参加と地域主体の組 合員組織の概要	マーケティングに対応した生産部会の あり方に関する研究会報告書	日本協同組合連携機構	平成30年6月	
6 岸上光克	新聞記事	若手「もうかる農家」目指す	日本経済新聞	日本経済新聞社	平成30年6月7日	
7 辻和良	雑誌論説	柑橘産地の展開過程と経営改善の方向	和歌山の果樹・平成30年7月号	和歌山県農業協同組合連合会	平成30年7月1日	
8 辻和良	雑誌論説	移住者を受け入れる意識・移住者と関わる意識-紀 美野町での農家アンケートをもとに-	和歌山の果樹・平成30年9月号	和歌山県農業協同組合連合会	平成30年9月1日	
9 植田淳子	雑誌記事	4世代でつなぐモモ農家の想い-和歌山県紀の川 市桃山町 稲垣さんの取り組み-	『農業』平成30年9月号	公益社団法人 大日本農会	平成30年9月1日	
10 藤田武弘	新聞記事	稼ぐ観光 大学が人材育成(国際性と地域性)		読売新聞	平成30年9月20日	
11 岸上光克	新聞記事	農・林・漁・商 共創シンボ	日本農業新聞	日本農業新聞社	平成30年9月25日	
12 岸上光克	新聞記事	次代が食と農学ぶ	日本農業新聞	日本農業新聞社	平成30年10月8日	
13 岸上光克	雑誌寄稿	JAフアーマーズマーケットにおける交流・体験活動 の実態	農中総研情報 No.2018.11	農林中金総合研究所	平成30年11月	
14 辻和良	雑誌論説	交流・体験とJA農産物直売所	和歌山の果樹・平成30年11月号	和歌山県農業協同組合連合会	平成30年11月1日	
15 辻和良	テレビニュース	全国の農林水産物直売サミット		テレビ和歌山・ニュース	平成30年11月1日	
16 辻和良	新聞記事	直売所の在り方を考える		わかやま新報	平成30年11月9日	
17 辻和良	新聞記事	直売所の交流活動/8割超が効果実感		日本農業新聞	平成30年11月10日	
18 湯崎真梨子	雑誌論説	「限界」集落の挑戦-古座川町七川地区の事例	わかやま住民と自治 第304号	和歌山県地域自治体問題研究所	平成30年11月25日	

5. 研究所活動

(1) 運営委員会 食農アドバイザー会議

○運営委員会

開催日	場所	開催内容	備考
1 平成30年6月26日	和歌山大学南1号館 共通会議室	1) アドバイザーボード規約の改正 2) 研究所事業報告 3) 研究所事業計画 4) その他	
2 平成31年3月22日	和歌山大学西3号館 第3会議室	1) 研究所事業結果 2) 研究所次年度の主な取組事項 3) その他	

○食農アドバイザー会議

開催日	場所	開催内容	備考
1 平成30年8月6日	和歌山大学南1号館 共通会議室	1) アドバイザーボード・メンバー委嘱 2) 研究所事業報告 3) 研究所事業計画 4) 意見交換 5) その他	

5. 研究所活動

(2) 所内会議

	開催日	開催内容	備考
1	平成30年4月3日	食農総合研究所の体制、活動方向、今年度の取組についてなど	
2	平成30年4月16日	食農総合研究所の事業計画、体制、各種会議についてなど	
3	平成30年5月7日	食農総合研究所パンフレットについて、運営委員会、地方創生推進・食農協議会、食農アドバイザリーボードについてなど	
4	平成30年5月14日	食農アドバイザリーボードメンバーの追加について、平成29年度研究年報の配布、公開セミナーの開催、研究ユニットについてなど	
5	平成30年5月28日	運営委員会、地方創生・食農協議会の開催について、共同研究・受託研究の受入、研究ユニット共通会議の開催についてなど	
6	平成30年6月11日	運営委員会の開催について、農業展開史の配布について、研究ユニット共通会議の開催について、公開セミナーについてなど	
7	平成30年6月25日	食農研究所パンフレットについて、運営委員会、地方創生・食農協議会、食農アドバイザリーボードの開催についてなど	
8	平成30年7月23日	地方創生・食農協議会・実務者合同会議について、研究ユニットセミナーについて、共同研究・受託研究の受入についてなど	
9	平成30年8月6日	食農アドバイザリーボードミーティングの開催について、研究所公開セミナーについて、ユニット会議について、受託研究についてなど	
10	平成30年8月27日	公開セミナーについて、JAわかやま寄付講義について、江頭財団寄付講義について、予算執行に関する基本方針についてなど	
11	平成30年9月12日	食農パンフレット改訂について、公開セミナーの開催について、研究ユニットセミナーの開催について、受託研究についてなど	
12	平成30年9月26日	公開セミナー、研究ユニットセミナーの開催について、受託研究について、予算執行に関する基本方針についてなど	
13	平成30年10月1日	食農総合研究所新任教員について、公開セミナー・研究所セミナーについて、JAわかやま寄付講義の開催についてなど	
14	平成30年10月15日	研究所セミナーの開催について、農林水産物直売サミットについて、JAわかやま寄付講義の運営についてなど	
15	平成30年11月5日	食農HPの充実について、食農共有フォルダの活用について、公開セミナー・研究ユニットセミナーについて、JA共同研究など	
16	平成30年11月19日	公開セミナー・研究ユニットセミナーについて、共同研究・受託研究について、新たな教育組織に関する現地検討会など	
17	平成30年12月10日	公開セミナー・研究ユニットセミナーについて、寄付講義について、新たな教育組織に関する現地検討会など	
18	平成31年1月7日	公開セミナー・研究ユニットセミナー、共同研究・受託研究について、今年度予算、次年度の見直しについて	
19	平成31年1月21日	公開セミナー・研究ユニットセミナー、共同研究・受託研究について、次年度大学院科目「食農地域づくり特論」について	
20	平成31年2月4日	公開セミナー・研究ユニットセミナー、共同研究・受託研究について、次年度大学院科目「食農地域づくり特論」について	
21	平成31年2月18日	公開セミナー・研究ユニットセミナー、共同研究・受託研究について、次年度大学院科目「食農地域づくり特論」について	
22	平成31年3月4日	各種セミナー、共同研究、受託研究の進捗状況について、研究年報、研究成果報告についてなど	
23	平成31年3月18日	平成30年度事業結果、平成31年度活動内容など	

5. 研究所活動

(3) 研究所研究ユニット会議

	会議名	開催日	場所	開催内容	備考
1	研究ユニット全体会議	平成30年6月11日	和歌山大学 南1号館 共通会議室	1) 平成30年度食農総合研究所事業計画(案)について 2) 各研究ユニットの本年度の取組について 3) その他(意見交換・意見聴取)	
2	ICT活用研究ユニット協議	平成30年8月6日	和歌山大学 南1号館 共通会議室	平成30年度研究ユニットの取り組み方針、ICT活用研究に係る外部アドバイザートとの協議	
3	地域資源活用ユニット会議	平成30年8月7日	和歌山大学 南1号館 共通会議室	平成30年度研究ユニットの取り組み方針について	
4	都市農村共生研究ユニット会議	平成30年8月7日	和歌山大学 南1号館 共通会議室	平成30年度研究ユニットの取り組み方針について	
5	ICT活用研究ユニットワークショップ	平成30年11月6日	和歌山大学構内	LoRa無線通信技術を活用したセンサーの組立、実装に関するワークショップ	

5. 研究所活動

(4) 教育活動への寄与

	講義名	講義内容	受講者	備考
1	観光と食料農業 (植田淳子・観光学部 の講義を担当)	近年、農業・農村には、従来の農業生産の機能のみならず、多面的な役割が求められている。本講義では、「食」や「農」を取り巻く社会的な動きを把握するとともに、近年農山村で取り組まれている「地産地消」、「グリーンツーリズム」などの活動や、担っている団体、人に焦点を当て、農業や農村の現状の理解を深める。	40人	和歌山大学 後期 木曜5限
2	食と農のこれからを考える	寄付講義	300人	※再掲
3	地域づくり戦略論	寄付講義	30人	※再掲
4	食料経済 (岸上光克・経済学部 の講義を担当)	食料をめぐる諸問題について経済学的側面から講述する。食料政策の展開、食農ビジネスの現状、食料消費・食生活・食環境の変化とその要因、食料の生産・流通などについて講述し、これらからの食料政策の特徴と問題点・課題を検証しながら、日本の食料需給・食生活をめぐって考察する。	90人	和歌山大学 前期 火曜1限
5	農業政策 (岸上光克・経済学部 の講義を担当)	日本の食料自給率は先進国のなかで最低の水準となっている。現在、安全・安心で安定的に食料を供給するための農業・農村政策の展開が求められている。そこで、わが国の農業・農村政策の展開過程を講述するとともに、今後の政策展開のあり方について考察する。	276人	和歌山大学 後期 火曜1限
6	中山間地域再生論 (岸上光克・観光学部 の講義を担当)	条件不利地域である中山間地域の農業・農村は、危機的状況にあり、「地方消滅」という言葉も発言したもよもよに耳にする。しかし、近年では地域の農林業を基軸とした「内発的発展」、「地域づくり」により、地域活性化を図る動きもある。本講義では、中山間地域問題の経緯と実態を概説し、多様な全国事例から地域再生の手がかりを考える。	74人	和歌山大学 後期 火曜2限
7	農山村再生戦略 (岸上光克)	農山村は、危機的状況にあるが、地域の農林業を基軸とした「内発的発展」、「地域づくり」により、地域活性化を図る動きもある。本講義では、農山村の実態を概説し、多様な全国事例から地域再生の手がかりを考える。	8人	和歌山県農林大学校
8	農業経営特論 (辻和良)	今日の農業経営者は経営を取り巻く環境に対して積極的に対応していくことが必要である。農業経営特論では、経営者が外部の環境と対応する際に必要な市場の仕組みや地域農業、経営の多角化、マーケティング等の基礎知識の習得を目指す。	22人	和歌山県農林大学校

5. 研究所活動

(5) 研究所成果報告・研究年報・研究所たよりなど

種類	発行日	内容	備考
1 研究成果第8号	平成30年8月	園芸産地の振興と人材育成 (平成29年年度食農総合研究所現地研究会記録)	
2 研究成果第9号	平成30年12月	農業体験農園の可能性を考える (平成30年度都市農村共生研究ユニット研究セミナー記録)	
3 研究成果第10号	平成31年3月	日高川町ゆめ倶楽部21の体験型観光・移住支援等の取り組みと課題 (平成30年度都市農村共生研究ユニット現地交流会記録)	
4 平成30年度研究年報	平成31年3月	食農総合研究所研究年報	

5. 研究所活動

(6) 意見交換会、広報活動、その他の活動など

	名称	開催日	場所	内容	備考
1	和歌山県産農産物を使った「新たな加工食品開発」に向けた意見交換会	平成30年9月7日 平成30年10月24日 平成30年12月20日	和歌山県庁東別館2-A 会議室	県内の大学、食品担当県職員、JA担当者、食品企業担当者が集まり、表題に基づいた意見交換実施。参加者15名程度で、毎回メンバーの入れ替えを行った。	三谷隆彦： コーディネーターとして 毎回参加

6. 參考資料

別 添 資 料

食農総合研究所設置要項

平成28年3月29日学長決裁

平成29年3月30日一部改正

(趣旨)

第1条 この要項は、和歌山大学地域イノベーション機構地域活性化総合センター規則第4条第3項の規定に基づき、和歌山大学地域イノベーション機構地域活性化センター食農総合研究所（以下「研究所」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 研究所は、和歌山圏域を中心に、食と農林水産業（以下「食農」という。）の分野に関わる研究活動を通じて、学術研究の発展と地域社会との連携や地域貢献機能の強化に資することを目的とする。

(業務)

第3条 研究所は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 食農の分野にかかわる研究・調査
- (2) 学術研究発展のための学内研究交流
- (3) 学内外ネットワークの構築による競争的資金の獲得及び受託・共同研究
- (4) 学術情報の集積と発信・交流
- (5) 多様な学内外における教育機会の提供と寄与
- (6) 地方創生と地域活性化への貢献
- (7) その他、研究所の目的達成に必要な事項に関すること

(組織)

第4条 研究所は、次の各号に掲げる構成員をもって組織する。

- (1) 所長
 - (2) 所員
 - (3) 特任教員
 - (4) 特任職員
- 2 所長は、本学教員の中から、役員会の議を経て、学長が任命する。
 - 3 所長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、所長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 4 研究所には、必要に応じて副所長を置くことができる。

(研究部門)

第5条 研究所に、次の各号に掲げる研究部門を置く。

(1) 都市農村共生研究部門

都市と農山漁村の交流・共生・協働による新たなライフスタイルを探求しその定着に資する研究部門

(2) 地域資源活用研究部門

地域資源の利活用と新たな価値創造を通じた自立的・持続的社会的システムの構築に資する研究部門

(3) ICT活用研究部門

洗練され高度化されたICT(情報通信技術)等活用による食と農の新たな関係構築に資する研究部門

2 前項のほか、業務の内容に応じ研究ユニットを配置することができる。

(運営委員会)

第6条 研究所に、運営委員会を置く。

2 運営委員会は、次の各号に掲げる構成員をもって組織する。

(1) 所長

(2) 学部から推薦された者(原則として各学部1名)

(3) その他所長が必要と認めた者

3 地域連携担当の理事又は副学長は、委員会に出席することができる。

4 その他、運営委員会に関する事項は、所長が別に定める。

(地方創生推進・食農協議会)

第7条 研究所に、地方自治体、農業協同組合、食農関連産業界等の参画を得て、地方創生推進・食農協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

2 協議会に関する事項については、別に定める。

(地域創生・食農アドバイザーボード)

第8条 研究所に、地方創生・食農アドバイザーボード(以下「アドバイザーボード」という。)を置く。

2 アドバイザーボードに関する事項については、別に定める。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この改正要項は、平成29年4月1日から施行する。

食農総合研究所運営委員会規程

所長制定 平成29年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、食農総合研究所設置要項第6条第4項の規定に基づき、運営委員会に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、食農総合研究所の運営方針及び事業計画その他重要事項について審議する。

(議長)

第3条 運営委員会に議長を置き、所長をもって充てる。

2 議長に事故あるときは、あらかじめ所長の指名する者がその職務を代行する。

(任期)

第4条 運営委員会の委員の任期は、2年とする。ただし、任期中欠員が生じ、これを補充した場合の任期は、前任者の残任期間とする。

(議事)

第5条 運営委員会は、構成員の2分の1以上の出席により成立し、議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(構成員以外の出席)

第6条 運営委員会が必要と認める場合は、構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(委員会の事務)

第7条 委員会の事務は、研究・社会連携課が行う。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

平成30年度 運営委員会委員名簿

氏名	所属
荒木 良一	教育学部
阿部秀二郎	経済学部
橋本 正人	システム工学部
藤田 武弘	観光学部
大浦 由美	食農総合研究所所長
岸上 光克	食農総合研究所副所長

食農総合研究所 地方創生推進・食農協議会規約

(趣旨)

第1条 この規約は、食農総合研究所設置要項第7条第2項の規定に基づき、地方創生推進・食農協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(協議事項)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事項を協議する。

- (1) 食農総合研究所（以下「研究所」という。）の目的達成に関する事
- (2) 研究所の業務推進・研究活動に関する事
- (3) その他、食農分野にかかわる地方創生と地域活性化に関する事

(組織)

第3条 協議会は、別表に掲げる組織の代表または推薦のあった者をもって構成する。

(会長)

第4条 協議会に会長を置く。会長は協議会委員の互選により選出する。

2 会長は、協議会の議長となる。

3 会長に事故あるときは、あらかじめ会長の指名する委員がその職務を代行する。

(招集)

第5条 協議会は、研究所所長が招集する。

2 協議会への旅費・手当等の支給は、国立大学法人和歌山大学旅費規定による。

(委員以外の者の出席)

第6条 研究所所長が必要と認めたときは、協議会に委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(実務者会議)

第7条 協議会に、協議会の運営等に関し、必要な事項を協議するため、実務者会議を置く。

2 実務者は、委員所属の組織から推薦のあった者とする。

(事務)

第8条 協議会の事務は、研究・社会連携課及び研究所オフィスにおいて行う。

附則

この規約は、平成28年6月28日から施行する。

附則

この改正規約は、平成29年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）協議会委員

所属	職名等
和歌山県	農林水産部長
和歌山県市長会	市長会代表または推薦者
和歌山県町村会	町村会代表または推薦者
和歌山県農業協同組合中央会	会長または推薦者
和歌山県森林組合連合会	会長または推薦者
和歌山県漁業協同組合連合会	会長または推薦者
公益財団法人わかやま産業振興財団	代表または推薦者
和歌山県食品産業協議会	会長または推薦者

平成30年度 地方創生推進・食農協議会委員

所属	職名	氏名
和歌山県	農林水産部長	原 康雄
和歌山県市長会	会長	望月 良男
和歌山県町村会	会長	寺本 光嘉
和歌山県農業協同組合中央会	会長	中家 徹
和歌山県森林組合連合会	代表理事会長	眞砂 佳明
和歌山県漁業協同組合連合会	代表理事会長	木下 吉雄
公益財団法人わかやま産業振興財団	専務理事	福田 良輔
和歌山県食品産業協議会	会長	妙中 清剛

平成30年度 地方創生推進・食農協議会実務者会議メンバー

所属	職名	氏名
和歌山県 (和歌山県農林水産総務課)	政策企画班長	川村 実
和歌山県市長会	事務局長	若林 誠治
和歌山県町村会	事務局長	土井 敏弘
和歌山県農業協同組合中央会 (JAグループ和歌山農業振興センター)	センター長	虎伏 秀
和歌山県森林組合連合会	代表理事専務	畑田 和伸
和歌山県漁業協同組合連合会	事務局長	宮田 雅之
公益財団法人わかやま産業振興財団	経営支援部長	永井 達郎
和歌山県食品産業協議会 (和歌山県食品流通課)	事務局長	赤坂 武彦

食農総合研究所 地方創生・食農アドバイザーボード規約

制 定 平成28年6月28日
最終改正 平成30年5月18日

(趣旨)

第1条 この規約は、食農総合研究所設置要項第8条第2項の規定に基づき、地方創生・食農アドバイザーボード（以下「アドバイザーボード」という。）の役割及び運営について定めるものとする。

(役割)

第2条 アドバイザーボードは、次の各号に掲げる事項について意見を述べることができる。

- (1) 食農総合研究所（以下「研究所」という。）の目的達成に関すること
- (2) 研究所の業務推進・研究活動に関すること
- (3) その他、食農分野に関わる地方創生と地域活性化に関すること

(構成)

第3条 アドバイザーボードの構成員（以下「アドバイザー・メンバー」という。）は、食農分野に関し高い見識を有する者のうちから、研究所運営委員会の議を経て学長が委嘱する。

(任期)

第4条 アドバイザーボード・メンバーの任期は、委嘱日から当該年度の末日を超えないものとし、再任を妨げない。

(報酬等)

第5条 アドバイザーボード・メンバーには、本学の規定に基づき、謝金及び交通費（旅費）を支給することができる。

(ミーティング等)

第6条 第2条に関わる意見を聴取するため、アドバイザーボード・ミーティングを原則として年1回開催する。

2 前項の規定に関わらずアドバイザーボード・メンバーは随時、研究所に対して意見を述べることができる。

(招集)

第7条 前条第1項に規定するアドバイザーボード・ミーティングは、研究所所長が招集する。

(事務)

第8条 アドバイザーボードの事務は、研究・社会連携課において行う。

附則

この規約は、平成28年6月28日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附則

この改正規約は、平成29年4月1日から施行する。

附則

この改正規約は、平成30年5月18日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

平成30年度 アドバイザリーボード・メンバー

所属	氏名
和歌山バイオサイエンス連絡協議会 事務局長	鵜飼 俊行
大阪商業大学 経済学部教授	大西 敏夫
京都大学教授	岡田 知弘
農業法人株式会社秋津野 副社長	木村 則夫
チョーヤ梅酒株式会社 専務	金銅 俊二
株式会社 Citrus 代表 (元和歌山県農業大学校長)	佐々木 茂明
和歌山大学名誉教授	橋本 卓爾
那智勝浦町 色川地域振興推進委員会 副会長	原 和男
辻調理師専門学校 企画部長・産学連携教育推進室長	尾藤 環
長野県 飯田市長	牧野 光朗
日本総合研究所 調査部主席研究員	藻谷 浩介

食農総合研究所 研究ユニットの設置及び活動について
(申し合わせ)

食農総合研究所設置要項第6条に基づく研究ユニットの設置及び活動については、以下のとおり申し合わせる。

<研究ユニットの設置>

- ① 研究ユニットは、都市農村共生、地域資源活用、ICT活用の研究部門ごとに設置する。このほか教育ユニットを設置することができる。
- ② 研究ユニットの構成は、本学教員（専任教員及び特任教員）に限る。なお、食農総合研究所・所内会議で必要と認めたときは、客員教員も参加することができる。
- ③ 研究ユニットへの参加は、毎年公募による。ただし、参加希望があれば随時受付することができる。また、研究ユニットへの参加は、複数のユニットに参加できることとする。
- ④ 研究ユニットへの参加教員の任期は、4年間（平成28年度～平成31年度）とする。ただし、退職（任期切れ）や本人の申し出により参加を取り止めることができる。
- ⑤ 研究ユニットへの参加教員は、食農総合研究所・所内会議で確認するとともに、毎年、学長並びに各部局に報告する。

<研究ユニットの運営と活動>

- ⑥ 研究ユニットリーダーは、食農総合研究所の特任教授並びに専任教員を中心に研究ユニット会議で決める。
- ⑦ 研究ユニットは、研究交流、研究サロンやセミナー等の開催、プロジェクト研究（競争的資金の獲得、共同研究・受託研究等）などに取り組むことができる。
- ⑧ 各研究ユニットの運営方法は、ユニット会議に委ねる。

<その他>

- ⑨ 研究ユニットの設置及び活動に関わってその他必要な事項は、食農総合研究所・所内会議で決める。

平成28年7月19日
食農総合研究所

平成30年度 研究ユニット参加教員一覧

	氏名	所属部局	専門分野
1	山口 真範	教育学部	農芸化学
2	荒木 良一	教育学部	植物育種、植物栄養
3	海津 一朗	教育学部	日本中世史
4	藤田 和史	経済学部	人文地理学
5	岩田 英朗	経済学部	情報科学（認知科学）
6	クパニ・ル ンビディ	経済学部	リーン生産システム（日本のものづくり）、SCM
7	平田 隆行	システム工学部	建築計画（生活空間）、農村計画・環境社会学
8	原 祐二	システム工学部	景観生態学
9	吉廣 卓哉	システム工学部	情報ネットワーク、無線通信
10	坂本 隆	システム工学部	生物有機化学
11	佐久間 康富	システム工学部	都市、地域計画
12	徳田 献一	システム工学部	ロボット工学、防災ロボティクス、画像処理
13	宮川 智子	システム工学部	都市・農村計画
14	宮本 伸一	システム工学部	無線通信方式
15	八島 雄士	観光学部	管理会計
16	大浦 由美	観光学部	森林経済学
17	永瀬 節治	観光学部	都市計画、まちづくり、景観・歴史的環境保全
18	藤田 武弘	観光学部	地域資源の発掘・活用、都市と農山村交流・協働
19	大井 達雄	観光学部	観光統計、企業不動産マネジメント
20	秋山 演亮	教養の森ユニット	宇宙インフラ利用
21	西川 一弘	地域活性化総合センター	社会教育学
22	渡部 幹雄	図書館	社会教育施設論（地域図書館・エコミュージアム）
23	田代 優秋	COC+推進室	地域資源管理、農業土木工学
24	岸上 光克	食農総合研究所	農産物流通、農協共販、農商工連携・6次産業化
25	杵本 敏男	食農総合研究所	肥料学、地域未利用資源の活用
26	辻 和良	食農総合研究所	都市農村共生、農業経営学
27	植田 淳子	食農総合研究所	グリーンツーリズム、農村ツーリズム
28	戴 容秦思	食農総合研究所	農畜産物流通、フードシステム、バリューチェーン
29	三谷 隆彦	食農総合研究所	食品科学
30	湯崎 真梨子	食農総合研究所	農村社会学、農村起業、内発的発展

研究ユニット参加教員 30名

- ①都市農村共生研究ユニット参加教員 13名
- ②地域資源活用研究ユニット参加教員 26名
- ③ICT活用研究ユニット参加教員 11名

平成30年度 食農総合研究所メンバー

氏名	職名
遠藤 史	和歌山大学理事・副学長
大浦 由美	食農総合研究所所長 観光学部教授 ICT研究ユニットリーダー
藤田 武弘	食農総合研究所副所長 観光学部長
岸上 光克	食農総合研究所副所長 教授 地域資源活用研究ユニットリーダー
杵本 敏男	食農総合研究所特任教授
辻 和良	食農総合研究所特任教授 都市農村共生研究ユニットリーダー
植田 淳子	食農総合研究所特任助教
戴 容秦思	食農総合研究所特任講師
三谷 隆彦	食農総合研究所客員教授
湯崎 真梨子	食農総合研究所客員教授
八幡 康子	食農総合研究所研究支援員
千葉 清行	研究・社会連携課長
高橋 正美	研究・社会連携副課長
永沼 美和	研究・社会連携課地域連携係長
室井 利之	食農総合研究所特任専門員 オフィス長
宮本 貴世子	食農総合研究所事務補佐員
小川 八絵子	食農総合研究所事務補佐員

発 行

和歌山大学 食農総合研究所オフィス
(地域活性化総合センター)

〒640-8510 和歌山市栄谷930

Tel : 073-457-7126 Fax : 073-457-7133

e-mail : syokuno@ml.wakayama-u.ac.jp